



# 2022年12月期 決算フォローアップミーティング

2023/02/13

アース製薬株式会社



## 2022年12月期 業績概要

---

本日開示した内容についてご説明いたします。

# 業績ハイライト



(単位：億円)

- 実質的に増収減益ながら、売上・利益ともに計画未達（会計基準変更の影響を除く）
- 天候不順に伴う虫ケア用品市場の低迷、原材料価格高騰・為替変動による影響を大きく受ける

「収益認識に関する会計基準」適用後				
	実績	計画比	前期比*	ポイント
売上高	1,523	98.3%	102.4%	・ 虫ケア用品・入浴剤が売上減となるも、その他日用品や海外の売上成長がカバー
売上総利益	624.6	93.4%	96.7%	・ 原材料高騰影響：前期比▲27.5億円、計画比▲15億円 ・ 収益性の高い虫ケア用品の売上構成比低下
販管費	550.3	98.1%	99.8%	・ コストコントロールを実施し、計画比▲10.6億円の圧縮
営業利益	74.3	69.2%	78.4%	・ 大幅減益
税引前 当期純利益	80.5	73.9%	82.4%	・ 特筆すべき営業外収支・特別損益なし

© Earth Corporation All Rights Reserved.

\*前期実績について、本年の基準を適用したと仮定した場合の参考値

2

こちらが2022年12月期の業績ハイライトです。

売上高1,523億円、売上総利益624億円、販管費550億円、営業利益74億円となり、1月30日に公表した修正開示の内容とほぼ変わらない結果となりました。

実質的に増収減益となりましたが、売上・利益ともに計画未達となっています。これは、天候不順に伴う虫ケア市場の低迷、原材料価格の高騰、為替変動の影響を大きく受けた結果となっています。

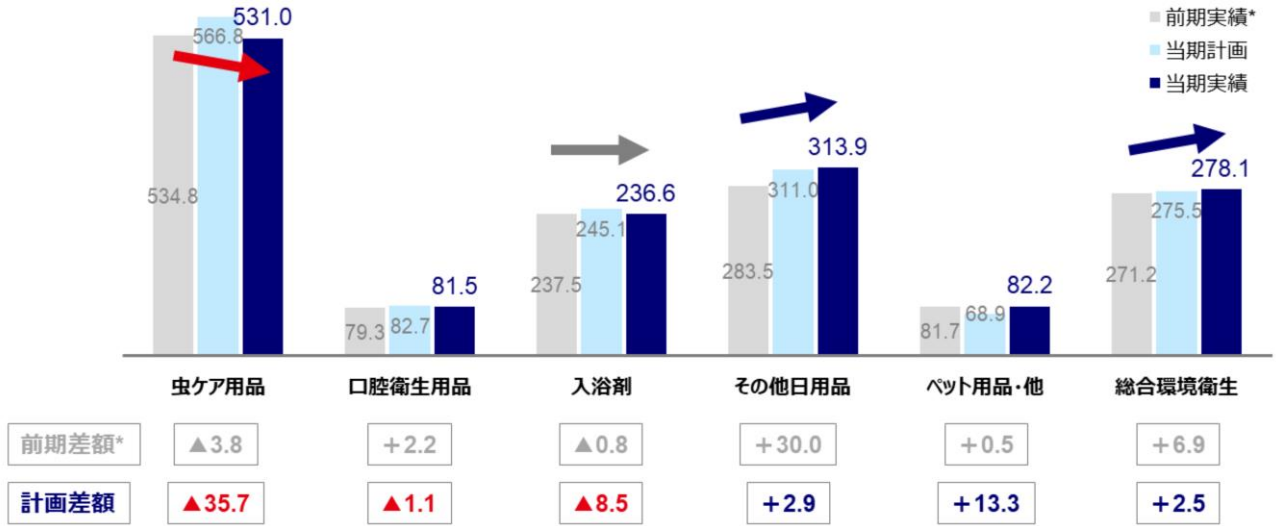
# 部門別売上高



\*外部顧客向け（内部相殺分除く）

（単位：億円）

- 虫ケア用品の減収、計画未達が業績に影響
- 入浴剤は微減収ながら高水準を維持、その他日用品はニッチ商材のヒットにより大幅増収
- 総合環境衛生事業は順調に売上を拡大



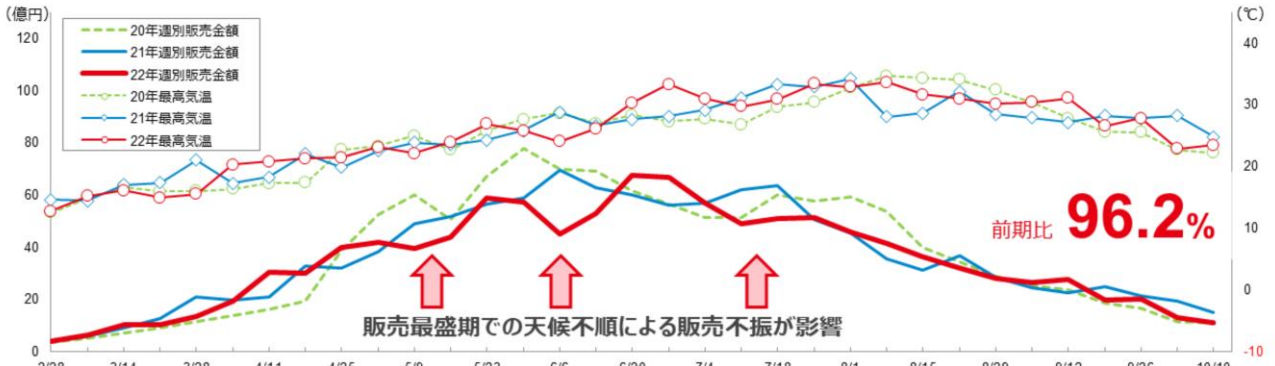
© Earth Corporation All Rights Reserved.

\*前期実績について、本年の基準を適用したと仮定した場合の参考値 3

部門別売上高の状況です。

虫ケア用品の減収、計画未達が大きく影響していますが、その他部門においては、入浴剤は微減収ではあるものの、過去2年大きく成長した高水準を維持しています。また、その他日用品はニッチな商材がヒットし増収に貢献しています。加えて、総合環境衛生事業も順調に売上を拡大しております。

# 国内虫ケア用品の状況



## 当社市場シェア

55.9% ➔ 56.3% +0.4pt

## 市場：カテゴリ別販売状況

- ハエ・蚊用、ゴキブリ用が前年を下回る
- ダニ・不快害虫用、虫よけ用品は微増

## 基幹商品の動向

- ・ アースノーマット

計画比 **87%**



- ・ 虫よけネットEX

計画比 **87%**



© Earth Corporation All Rights Reserved.

こちらは、国内虫ケア用品マーケットの状況です。

当社の市場シェアは56.3%となり、昨年に比べて0.4ポイント上昇しました。ただし、上記グラフで示しているとおり、販売最盛期における天候不順や気温が例年を下回ったことが販売不振に影響しています。マーケットも前年比で96.2%となり、当社の主力製品が市場低迷に引きずられることとなりました。

# 原価の状況



- 原材料、包材などの全般的なコストアップに加え、為替変動が影響し、利益を圧迫
- 対前期：27.5億円、対計画：15億円のコストアップ要因

## 原材料価格高騰の影響

### 当初計画の前提

利益影響額

▲12.5億円

### 前提との差異額

利益影響額

▲15億円

【価格高騰している主な原材料・包材】

- 濃グリセリン（モンダミン・入浴剤）
- コハク酸・重曹（入浴剤）
- LPG（エアゾール）
- 樹脂（製品全般の容器・フィルムなど）

### 為替レートの当初想定との差異

通貨	予算レート	実績レート	予算比
人民元	17.15	19.01	+10.8%
USD	111.00	132.70	+19.5%
THB	3.38	3.80	+12.4%
VND	0.00505	0.00555	+9.9%

### 為替変動による影響

- 取引規模の関係から、最も影響を受けるのは人民元の為替変動
- 計画比5億円のコストアップ

© Earth Corporation All Rights Reserved.

5

続いて原価の状況です。

原材料や包材価格の高騰、為替変動の影響があり、対前年で27.5億円となりました。また、当初計画に12.5億円はおりこんでいたものの、15億円が計画差異となっています。

2022年に価格高騰した原材料は、洗口液の原料である濃グリセリン、入浴剤の原料であるコハク酸や重曹などとなっています。

# 取り組み成果：高価格帯製品の売上貢献



- 新製品ローンチを通じて、高価格帯の市場を開拓
- 特に虫ケア用品市場においては、高付加価値・高価格帯製品が受け入れられる土壌を形成

## 『マモルーム』（蚊用・ダニ用）



【売上計画比】

**1.7倍 + 3億円**

[おうちの中をダニや蚊と出会わない“あんしん”空間へ - mamoroom \(earth.jp\)](http://earth.jp/mamoroom)

## 『イヤな虫ゼロデナイト』



【売上計画比】

**2.3倍 + 3億円**

[イヤな虫ゼロデナイト - 虫ストレスゼロへ | アース製薬 \(earth.jp\)](http://earth.jp/yanayamushi)

© Earth Corporation All Rights Reserved.

6

原材料価格高騰の影響などはありませんが、取り組みの成果は着実に出ています。

まずは新製品のローンチに伴い、高価格帯の市場を開拓できました。スライド記載のマモルーム、ゼロデナイトは計画に対して2倍程度の実績を出すことが出来ました。

# 取り組み成果：秋季発売新製品の貢献



- 機動的な製品開発により、秋季に計画外の新製品を追加ローンチ
- 想定を上回る売上寄与

## 秋季発売新製品（抜粋）



【計画外新製品による売上\*寄与額】

当初想定

実績

**11億円 → 15億円**

© Earth Corporation All Rights Reserved.

\*当社出荷ベース

7

2022年秋に発売した新製品も売上に貢献しました。

2022年12月期第2四半期の決算説明の際には11億円程度の売上寄与と説明していましたが、結果として15億円となり、着実に売上に寄与することができました。

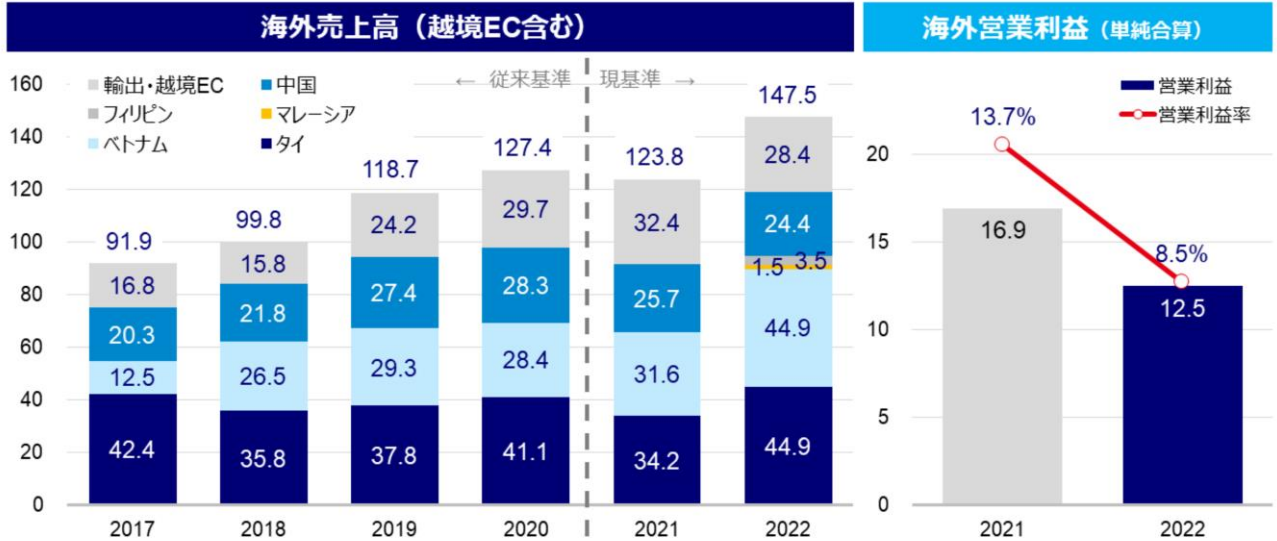


# 取り組み成果：海外展開の規模拡大



(単位：億円)

- ASEAN中心に順調に拡大を続け、海外展開全体の売上高は前期比119.1%
- マレーシア・フィリピンの新規連結：+4.9億円、オーガニック成長+為替：+19.0億円
- 原材料価格・海上運賃の高騰、輸出の不振などにより、収益性は低下



© Earth Corporation All Rights Reserved.

\*前期実績について、本年の基準を適用したと仮定した場合の参考値

8

海外についても成長を持続しています。

海外は当社の最重要戦略に据え、海外の規模拡大が重要な柱となっています。2022年もASEANを中心に着実に拡大を進めました。為替影響はありますが、オーガニックな成長も進んでおり、今後もこの方針を継続していきます。

# 取り組み成果：コストコントロール



(単位：億円)

## ■ 業績動向に応じた適切なコストコントロールの実施により、計画比▲10.6億円

	2021年 4Q累計実績*	2022年 4Q累計計画	2022年 4Q累計実績	計画対比	ポイント
人件費	208.8	209.1	206.8	▲ 2.2	昇給は計画通り、採用計画>キャリア採用人員
運送費	42.7	44.4	45.0	0.5	エネルギー価格の上昇
保管料	23.8	25.1	25.6	0.5	在庫の増加
広告宣伝費	83.9	81.2	73.9	▲ 7.2	業績動向に応じたコントロール実施
販売促進費	5.7	10.7	10.2	▲ 0.4	
研究開発費	31.7	33.8	32.1	▲ 1.6	
減価償却費	12.7	13.8	14.7	0.8	
のれんの償却費	18.3	4.5	4.2	▲ 0.2	株バスクリン のれんの償却が22.1Qで終了
旅費交通費	10.9	13.9	13.1	▲ 0.7	
交際費	3.3	4.7	5.2	0.4	
支払手数料	14.6	13.7	13.2	▲ 0.4	
販売手数料	8.1	12.4	14.1	1.6	
雑費	6.9	10.2	8.0	▲ 2.2	
その他	80.0	83.4	84.2	0.5	
販管費 計	551.4	560.9	550.3	▲ 10.6	

© Earth Corporation All Rights Reserved.

\*前期実績について、本年の基準を適用したと仮定した場合の参考値

9

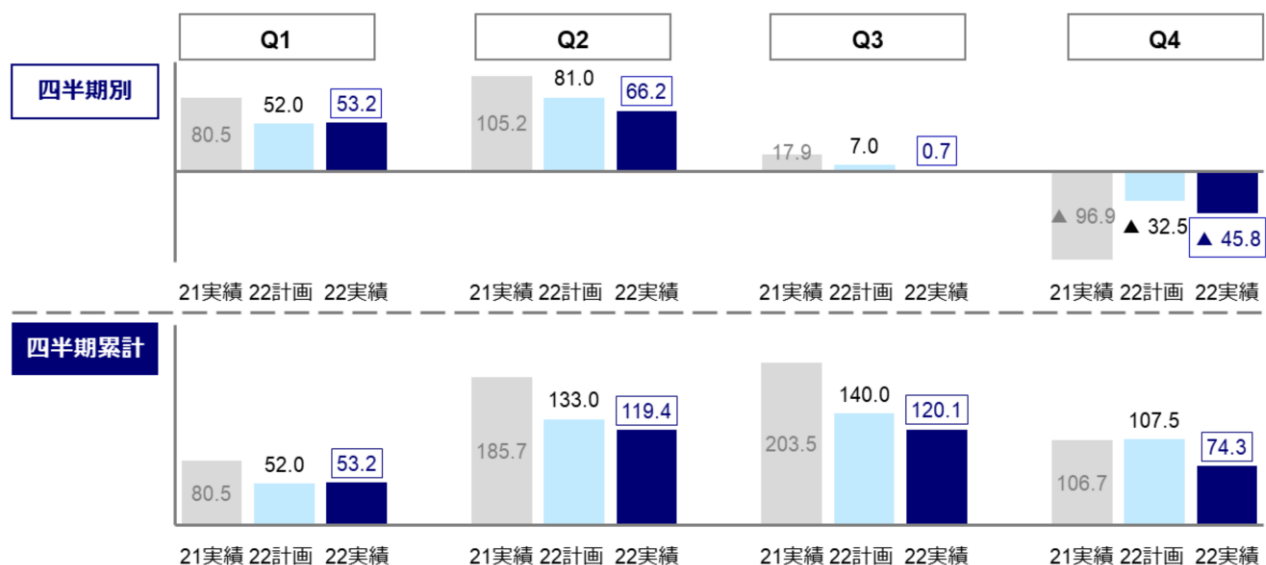
コストコントロールについては、業績動向に応じて行っており、計画に対して10億円の抑制、前年とほぼ同等の水準となっています。

# 取り組み成果：四半期ごとの利益の平準化



(単位：億円)

- 販促費の適時計上により、業績の季節性が緩和
- 第4四半期（10-12月）の利益については、まだ改善の余地あり



© Earth Corporation All Rights Reserved.

10

従来、当社は第4四半期に大きな赤字を計上し、アナリスト・投資家の皆さまからは第4四半期が終了するまで業績が見通しにくいというご指摘を頂戴していました。このご指摘に対して、販促費の適時計上、つまり、販促費が発生したタイミングでの計上を進めてきた結果、業績の季節性が着実に緩和しています。グラフにもあるように、第4四半期では、2021年は96.9億円の赤字でしたが、今期は45.8億円まで赤字幅が縮小しました。

ただし、計画32.5億円に対しては乖離があるため、まだまだ改善余地があると考えています。こちらは今後の課題として継続して取り組んでまいりますので、ご期待ください。



## 2023年12月期 計画概要

---

続いて、2023年の計画について説明いたします。

# 2023年 計画ハイライト



(単位：億円)

- 持続的な成長に向けた投資による将来収益の拡大と収益構造改革による増益確保を両立する
- 2022年に引き続き、原材料価格高騰の影響を受けるが、価格改定施策により対応

2023 計画	ポイント	2022 実績
<b>売上高</b> 1,600	・ 販売数量増、高単価製品のローンチ、価格改定、海外成長 ・ 虫ケア用品市場は2022年並みを前提	1,523
<b>売上総利益</b> 665.0	・ 原材料価格高騰の影響想定（▲25億円）を価格改定施策により吸収	624.6
<b>販管費</b> 585.0	・ 引き続き、適切なコストコントロールを実施 ・ 将来成長に向けて、人件費を積み増し	550.3
<b>営業利益</b> 80.0	・ 前期比+5.6億円 ・ 営業利益率5%の確保	74.3
親会社株主帰属 当期純利益	54.0 ・ 微増益	53.0
<b>ROE</b> 8%台	・ 資本効率を意識し、最低限のROE目標を掲げる	8.6%

© Earth Corporation All Rights Reserved.

12

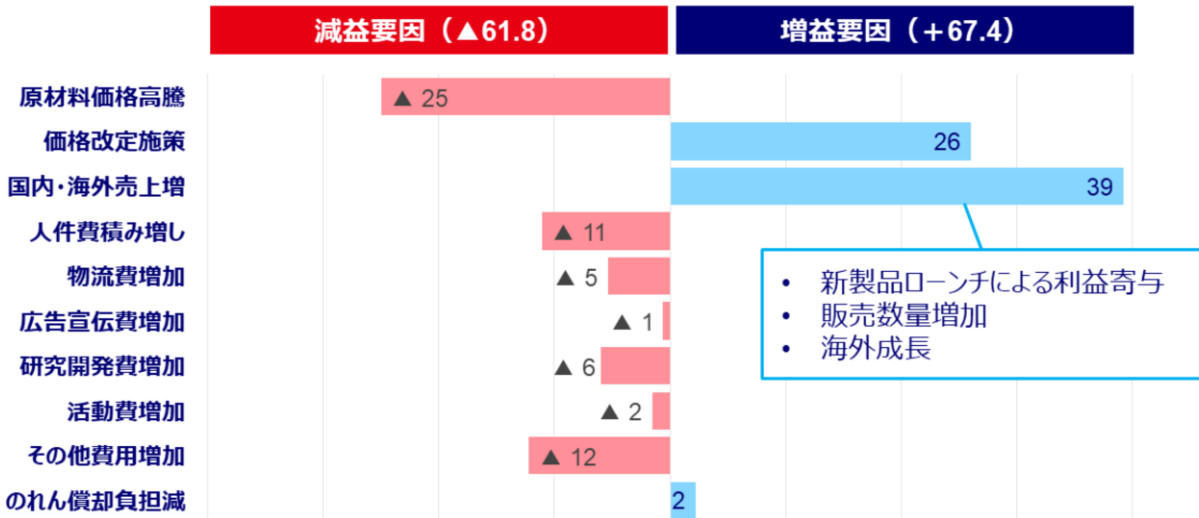
売上高1,600億円、売上総利益665億円、販管費585億円、営業利益80億円と増収増益を計画しています。営業利益率5%の確保も目指しています。

# 2023年 営業利益変動要因



(単位：億円)

- 原材料価格の高騰による影響は、価格改定施策により吸収
- 国内・海外の売上成長に伴う利益増を見込む一方で、成長に必要な費用は適切に使用
- のれんの償却負担が2億円軽減



© Earth Corporation All Rights Reserved.

13

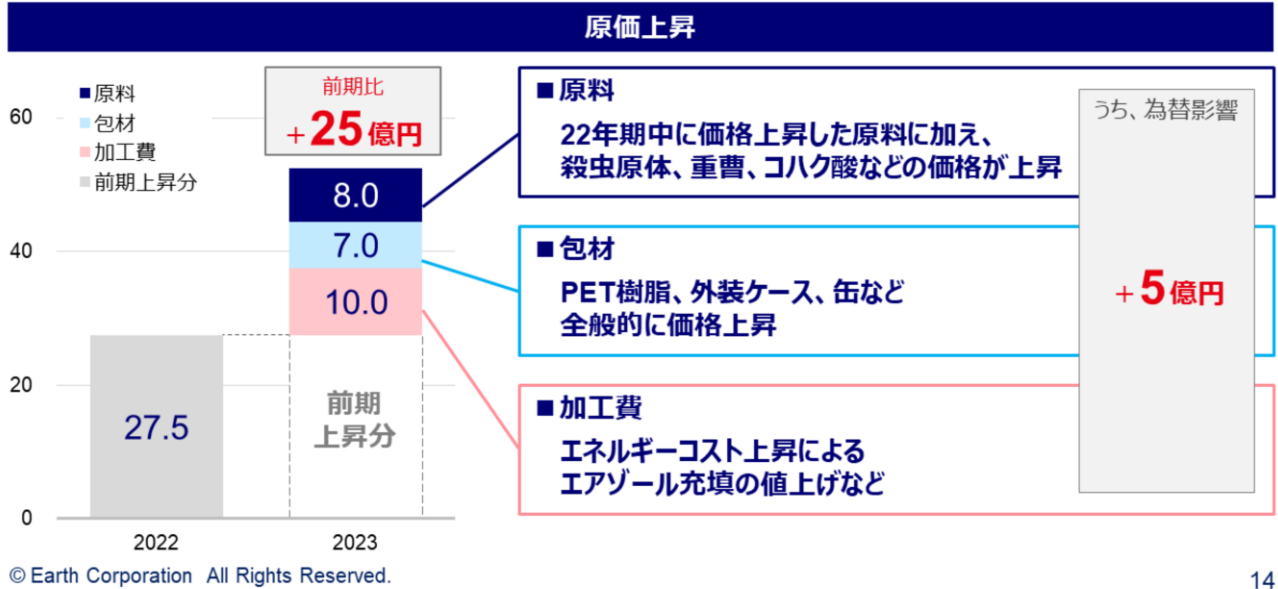
こちらは、営業利益の変動要因です。

2023年も原材料価格高騰の影響を大きく受け、25億円を想定しておりますが、価格改定施策で吸収する計画です。その他、国内外の売上成長、新製品のローンチによる利益寄与や販売数量の増加など、着実なオーガニック成長を進め、人への投資や研究開発費の増加など先々の成長に必要な投資をカバーしていく考えで、今期は進めてまいります。

# 想定する原価上昇

(単位：億円)

- 原料、包材、加工費などの全般的な上昇に加え、2022年中の為替変動も影響
- 原材料価格高騰・為替変動による影響額を **+25億円** と見込む



14

想定する原材料価格高騰の影響を分解したものがこちらです。

25億円の内訳を原料、包材、加工費を3つに分類し、全て上昇を想定しています。

原料については、22年度の期中に価格上昇した原料は今上期に影響を及ぼしていきます。包材、Pet樹脂、外装ケース等も価格上昇の影響を受けます。エネルギーコストの上昇によってエアゾール充填コストが値上がっており、影響を受ける見込みです。また、原料、包材、加工費全てに関連する為替影響として5億円を見込んでいます。なお、足元の為替が1ドル130円前後で落ち着いていますが、昨年中に調達しているため、今期はこの影響を受けます。円高の影響はもう少し先になる見込みです。

地球を、キモチいい家に。



本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

一旦、本日発表した決算に関する概略をご説明させていただきました。  
詳細は、2月14日の決算説明会にて社長より説明させていただきます。  
ご清聴ありがとうございました。